

セント・ルークス医科大学で災害医療の特別講演を行いました（2015/8/26）

テーマ：感染症と災害医療

会場：St. Luke's Medical Center（マニラ）

2015年8月26日(水)に、フィリピンのマニラにある St. Luke's Medical Center (SLMC) で江川新一教授が特別講演を行いました。同時期に開催されたフィリピン科学技術庁、保健省、COHRED が共催する Global Forum 2015 の開催期間に合わせて臨床・基礎医学を問わず災害医療に関する世界の潮流と、災害感染症の概念について医療従事者に特別講演を依頼されたものです。

江川新一教授は、東日本大震災における保健・医療対応の特徴、阪神淡路大震災をきっかけとして始まったわが国の災害医療体制、変化する保健医療ニーズ、災害感染症、そして仙台防災枠組みについて約 1 時間の講演を行いました。

災害は誰にでも、いつでも、どこでも起こりうるもので、病気と災害が似ている点が多々あること、治療に相当する対応も非常に大切であるが、予防に相当する備えがより効果的で災害リスクを減少させる可能性があることから、すべての保健医療従事者は基本的な知識として災害医療を学ぶべきであることを力説しました。

フィリピンは災害が多発する国であり、人々の関心は高いのですが、保健医療従事者の中で防災の知識は根付いているとは言えません。東北メディカル・メガバンク機構の見学に東北大学を訪れた同大学の分子生物学の専門家が基礎・臨床にかかわらず学ぶべきテーマとして災害医療・感染症を選んでくれたことは時宜にかなっていると思われます。

フィリピンでは大都会マニラにおいても地震・洪水・台風などの可能性が高くあり、三次医療機関である SLMC のような大病院は災害時に中心的な役割を果たすことが求められています。フィリピン大学ディルマン校や、SMC の関連病院からも参加者があり、フィリピンやわが国においてカリキュラムに災害医療を組み込んでいくためのネットワークが強化されました。



東北メディカル・メガバンク機構への訪問と見学をきっかけに災害医療の特別講演を企画していただいた分子生物学研究所の Maria Luisa Daroy 所長



医学部長 Dr. Brigido L. Carandang, Jr、Maria Luisa Daroy 教授(所長)、Mark Pierre S. Dimamay 副所長と江川新一教授

文責：江川新一（災害医学研究部門）